

【学力向上フロンティアスクール中間報告書】

都道府県名	秋田県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	増田町立増田小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	3	2	2	3	2	16	25
児童数	66	71	82	75	64	88	4	450	

実践研究の概要

1 研究主題

わかる，できる喜びのある授業の創造
-------------------

2 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学年国語（話す・聞く・読む能力を培う基礎教科であるため）</li> <li>・全学年算数（児童の理解の状況に差が出やすい教科であるため）</li> <li>・3.4.5.6年理科（理科離れを防ぎたいという願いから）</li> <li>・5.6年音楽，4.5.6年図画工作，6年家庭・体育（専門的な指導技術を必要とする教科であるため）</li> </ul>
--

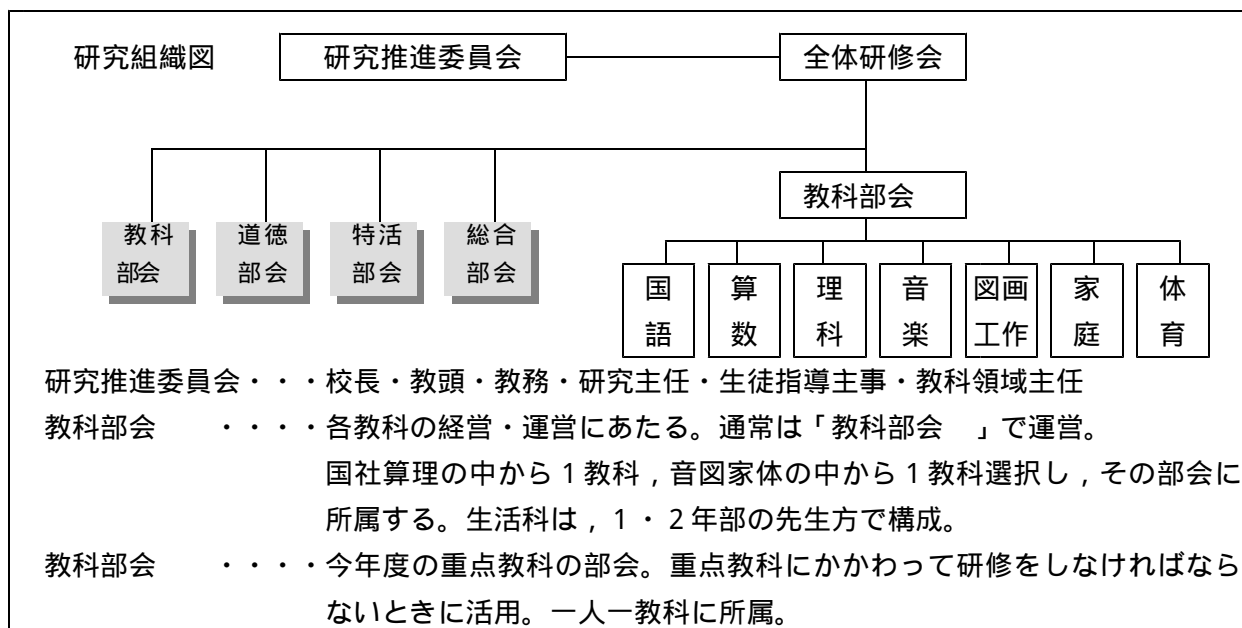
(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ</p> <p>わかる，できる喜びのある授業の創造</p> <p>研究の見通し（仮説）</p> <p>学習過程において、児童一人一人の実態を把握し、一人一人が進んでかかわることができる教材を提示するとともに、体験的な学習や問題解決的な学習を積極的に取り入れ、少人数指導やTT指導，教科担任制などの指導体制を工夫することによって、どの子にも「わかった・できた」という実感を味わわせることができ、それが確かな学力の向上につながっていくのではないかと。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の学力分析と学力の評価を生かした指導</li> <li>・評価規準に対応した評価方法の確立と活用</li> <li>・個に応じた指導のための指導方法や指導体制の工夫</li> </ul> <p>少人数指導の導入</p> <p>1C2T・・・1年算数 2年算数 5年算数 6年理科</p> <p>2C3T・・・3年国語・算数 4年国語・算数 6年国語・算数</p> <p>教師の得意分野を生かした教科担任制の導入</p> <p>4年理科・音楽・図画工作 5年理科・音楽・図画工作・体育</p> <p>6年図画工作</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校との連携（校内研究会の相互交流）</li> <li>・自主公開研究会の開催（今年度の成果発表）</li> </ul>

平成15年度	<p>テーマ</p> <p>わかる，できる喜びのある授業の創造</p> <p>研究の見通し（仮説）</p> <p>学習過程において、児童一人一人の実態を把握し、一人一人が進んでかかわることができる教材を提示するとともに、体験的な学習や問題解決的な学習を積極的に取り入れ、少人数指導やTT指導，教科担任制などの指導体制を工夫することによって、どの子にも「わかった・できた」という実感を味わわせることができ、それが確かな学力の向上につながっていくのではないか。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個に応じた指導のための教材開発(発展的・補足的な学習)</li> <li>・個に応じた指導のための指導方法や指導体制の工夫</li> </ul> <p>少人数指導</p> <p>1 C 2 T・・・1・2・3年国語・算数 4・5年理科 6年算数</p> <p>2 C 3 T・・・4・5年国語・算数 3 C 4 T・・・6年国語</p> <p>教師の得意分野を生かした教科担任制</p> <p>4年理科・図画工作 5年理科・音楽・図画工作</p> <p>6年理科・音楽・図画工作・家庭・体育</p> <p>習熟の程度に応じた指導，地域人材の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の学力分析と学力の評価を生かした指導 (評価規準に対応した評価方法の確立と活用・自己評価の活用)</li> <li>・中学校との連携(授業交流できる教科・単元の開発，授業交流)</li> <li>・自主公開研究会の開催</li> </ul>

平成16年度	<p>テーマ</p> <p>わかる，できる喜びのある授業の創造</p> <p>研究の見通し（仮説）</p> <p>学習過程において、児童一人一人の実態を把握し、一人一人が進んでかかわることができる教材を提示するとともに、体験的な学習や問題解決的な学習を積極的に取り入れ、少人数指導やTT指導，教科担任制などの指導体制を工夫することによって、どの子にも「わかった・できた」という実感を味わわせることができ、それが確かな学力の向上につながっていくのではないか。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個に応じた指導のための教材開発(発展的・補足的な学習)</li> <li>・個に応じた指導のための指導方法や指導体制の工夫</li> </ul> <p>少人数指導，教師の得意分野を生かした教科担任制</p> <p>習熟の程度に応じた指導，地域人材の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の学力分析と学力の評価を生かした指導 (評価規準に対応した評価と活用・自己評価の活用)</li> <li>・中学校との連携(授業交流)</li> <li>・自主公開研究会の開催</li> <li>・3年間の研究のまとめ</li> </ul>

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1 研究の成果

(1) 児童の学力分析と評価に関連して

- ・昨年度末に実施したC R T標準学力検査の結果を，学年毎にどの教科のどの領域・観点から落ちているかについて分析した。国語・算数ではその分析をもとに「重点単元」を設定し，コース別学習や習熟の程度に応じた指導に取り組むなど，教師の意識に変化が見られ，工夫した学習活動を展開することができた。
- ・評価規準の中に努力を要する子への手立てを定めたことにより，授業を展開していく際に，つまずきのある子への対応が効果的にできるようになってきている。

(2) 少人数指導に関連して

- ・少人数指導(1 C 2 T・2 C 3 T・3 C 4 T)は，児童に大変歓迎されている指導体制である。この体制を取り入れて2年目であるが，今年度も「わかりやすい」「集中できる」「得意になった」「楽しい」という児童の声が聞かれる。また，T T指導については，2人または3人の教師に相談できるという声も聞かれ，児童にとっての安心感もあるようだ。
- ・単元によっては，コース別学習や習熟の程度に応じた少人数指導ができるなど，さまざまな指導の工夫が可能となり，個に応じた学習に取り組めるようになってきた。
- ・算数科において習熟の程度に応じた指導を行うことにより，単元終了後の評価テスト結果をみると，到達度がよくなってきている。

(例) 4年生の「わり算」の学習の単元終了後の評価テスト結果(平均点)

	自力解決コース	自力解決・練り合いに重点をおくコース	じっくりコース
1学期	87点	78点	60点
2学期	92点	86点	62点

1学期は2，3位数÷1位数，2学期は2，3位数÷2位数の学習である。同じ内容のテストではないが，2学期の方が内容的には難しくなっているものの，各コースの平均点が2～5点上昇している。

( 3 ) 教科担任制に関連して

- ・少人数指導同様，教科担任制も児童に大変歓迎されている指導体制である。教科担任制導入2年目の今年度も，「楽しい」「わかりやすい」「考えるのが好き」「得意になった」という児童の声が聞かれる。また，教科担任制を実施している教科が「大好き・好き」と答える児童がたいへん多い。
- ・教師の専門性を生かした指導を行うことによって，子どもたちの技能面での向上が見られるようになった。(実験の技能，様々な楽器を演奏する技能，造形的な技能)
- ・昨年度は，その教科担当教師一人の責任においてすべて実施されている状況であった。今年度は教科部を活用し，教材研究等も教科部で話し合っ実践に移していくようにした。また，教科経営について年度当初に共通理解を図ったことにより，教科担任制を行っている教科について，他の学年でも教科経営に沿った授業を展開しようと試みるようになった。

( 4 ) 教材開発に関連して

- ・昨年度は，個に応じた指導を行う際，つまずきのある子に目を向け，補充的な学習を意識して実践を行った。今年度は「よりわかる」「よりできる」子を育てるためにも，発展的な学習の考え方について共通理解を図り，算数と理科について少しずつ実践を積み重ねてきた。発展的な学習を取り入れることによって，分かる子・できる子の満足が高まってきている。

(例) 5年生の「てこのはたらき」の学習の単元終了後の評価テスト結果

コース	児童数	コース毎の平均点
発展的な学習	44人	96.3点
補充的な学習	21人	86.0点

( 5 ) 小・中連携に関連して

- ・年度当初に，小・中の連携を図ることができる教科・領域・単元について話し合ったことにより，計画的に授業実践できるようになった。

( 6 ) C R T 標準学力検査の結果より ( 前年度との比較 )

・3年生の国語

昨年度は「読む能力」の十分満足できる(A)の割合が全国平均を2%下回った。そこで今年度3年生では，「読む力」を付けるために，重点的に指導する単元を決めて取り組んだ結果，今年度は，全国平均を9%上回る結果となって表れた。

・5年生の算数

「数学的な考え方」の十分満足できる(A)と，満足できる(B)を合わせた割合は4年生の時と同じだが，昨年度よりも十分満足できるというAの割合が10%も上昇している。

- ・教科担任制を行っている4年生以上の理科については，十分満足できる(A)の割合が8～13%も全国平均より上回っている。

## 2. 今後の課題

### (1) 児童の学力分析と評価に関連して

- ・ C R T 標準学力検査や学習状況調査の結果を分析することで、学年・学級全体の傾向はつかむことはできているが、それを「個へ生かす」ということにおいては不十分である。

### (2) 少人数指導に関連して

- ・ 話し合いを行って評価するので、たくさんの目で評価できるよさはあるが、評価にずれが生じないようにさらに研究をしていく必要がある。

### (3) 教科担任制に関連して

- ・ 自分の担当している教科については、縦のつながりを考えて系統性をもって単元を構成することができるが、担当していない教科との関連を図った指導を行うことが難しい。そのため、より教科間の連携を図っていく必要がある。

### (4) 教材開発に関連して

- ・ 各学年で教材開発したものを全職員で共有できるような工夫をしていく必要がある。

### (5) 小・中連携に関連して

- ・ 小・中学校9年間を見通した学習指導ができるようにするために、各教科毎に、系統性を考えた一覧表を作成することを検討中である。

## 学力把握のための学校の取組

- ・ 単元毎のレディネステストや評価テストの実施。
- ・ 標準学力テストの実施（年1回・・・国語・社会・算数・理科）
- ・ 学習状況調査の活用。

## フロンティアスクールとしての研究成果の普及

### 研究会、説明会等の開催実績及び開催予定

- ・ 自主公開研究会      実施期日：平成15年11月7日（金）      会場：増田町立増田小学校  
参加対象：秋田県内小・中学校及び関係機関  
内 容：授業公開と本年度の研究発表
- ・ 平成15年度県南地区「確かな学力」向上推進協議会  
実施期日：平成16年1月21日（水）      会場：秋田ふるさと村ドーム劇場  
参加対象：県南各小・中学校の代表者2名参加（1名は校長・教頭・教務主任・研究主任から）  
内 容：フロンティアスクール等がワークショップ形式で実践発表
- ・ 自主公開研究会・・・来年度は、平成16年11月19日（金）に開催予定

H P 作成について・・・研究成果普及のため、7月よりH P を開設

### フロンティアティーチャーとしての研究成果普及のための活動

- ・ 平成15年度県南地区「確かな学力」向上推進協議会（平成16年1月21日実施）での発表
- ・ H P を通して研究の成果を紹介するためのH P 作成の担当として活動

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】	1 5年度からの新規校	1 4年度からの継続校		
【学校規模】	6 学級以下	7 ~ 1 2 学級		
	1 3 ~ 1 8 学級	1 9 ~ 2 4 学級		
	2 5 学級以上			
【指導体制】	1 少人数指導	1 T . T による指導		
	1 一部教科担任制	1 その他		
【研究教科】	1 国語	1 社会	1 算数	1 理科
	1 生活	1 音楽	1 図画工作	1 家庭
	1 体育	1 その他		
	【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】	1 有	1 無	